

* 「わがたましいよ。主をほめたたえよ。私のうちにあるすべてのものよ。

聖なる御名をほめたたえよ。」（詩103:1）

詩篇103編は全編、一点の曇りもなく主をほめたたえる歌、純粋な賛美の詩篇である。「わがたましいよ。主をほめたたえよ。」で始まり、同じ言葉で締めくくられる。「わがたましいよ。」ともう一人の自分に語り聞かせるようにして心から叫び、真実な思いを表している。

* 「わがたましいよ。主をほめたたえよ。主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな」。(103：2) 主が私に良くしてくださったことを徹底的に覚えて感謝する心から賛美は生まれる。それは自分の願いや欲望をなんでも聞いて実現してくださったということではない。神は私たちの願いが本当に必要であると判断されたら聞かれるし、今与えると良くないと考えられると敢えて聞かれない。そこに、親としての本当の愛の姿がある。

* 神は私たちに3つの大きな恵みを与えてくださった。

「主は、あなたのすべての咎を赦し、あなたのすべての病をいやし、あなたのいのちを穴から贖い、あなたに、恵みとあわれみとの冠をかぶらせ」(103:3-4) 「罪の赦し」「病のいやし」そして、「永遠のいのち」である。これらの恵みは、イエス・キリストの十字架と復活を信じて与えられる恵みである。今年は悲しい事や、つらいことばかりで何も良いことがなかったと思っても、主を信じる者にはすくなくとも「罪の赦し」と「永遠のいのち」は確実に与えられている。

* 「主は、私たちの成り立ちを知り、私たちがちりにすぎないことを心に留めておられる。」(103：14) 私たちをちりからつくられたことを神は当然ご存知なので、ちりのように小さく、弱く、もろい私たちを決して乱暴に扱われることはない。「あなたの一生を良いもので満たされる。あなたの若さは、鷲のように、新しくなる。」(103：4) 肉体は一年一年歳をとっていくが、霊的年齢は若くなっていく。恵みが増し加えられていくからである。私たちも恵みを一つずつ数えて「わがたましいよ。主をほめたたえよ。主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな。」と私自身に向かって叫びたい。